



方除の大社  城南宮
神前結婚式のご案内

[目次]

* ご由緒

* 結婚式のご案内

式場（神楽殿）・控室（斎館）

* 式次第

* 所作の解説

* 周辺図

* 境内図

* 写真撮影に関して

城南宮は、平安遷都の折、都の南に守護神として創建された、1200年余りの歴史を持つお社です。古来、方角の災いを除く方除の神社、また旅行安全・交通安全の神様として篤く信仰されています。現在も新居を構える際に、その安全と夫婦円満を、また新婚旅行の安全を祈願する方が絶えません。

そして平成8年、ご創建1200年を記念し、平安貴族の寝殿造りを採り入れた優美な神楽殿が完成いたしました。三方を大きな窓に囲まれ、木漏れ日が差し込む明るい建物で、雅やかな曲水の宴が執り行われる平安の庭の池水に臨んで建っています。どうぞ晴れの結婚式を城南宮でお挙げになり、神様のご加護を受けて新たな一步を踏み出してください。





式 場 寝殿造りの神楽殿。

お式では巫女が鈴の音をさやさやと打ち鳴らしてお神楽を舞います。

参列者人数 ご両家それぞれ 15 名様まで、あわせて 30 名様までご参列出来ます。

挙式料 金 8 万円をお供えください。

※打合せにお越しの際にご持参ください。



挙式の開始は、始まりは10時から最終の開始が15時からです。ゆったりと式を挙げて頂けるよう、一日2組までを原則としています。
詳しい開始時間は、お問い合わせ下さい。



写真は、斎館控え室

控え室

斎館もしくはむすび殿。控え室のご利用時間は、挙式開始時間の1時間前から2時間です。挙式時刻の30分前までにご集合ください。昆布茶の用意がございます。



お申し込み

挙式6ヶ月前より2ヶ月前まで受付しています。
受入れ可能月は、4月・5月・6月・10月・11月です。
上記のうち、祭典行事などで受け入れ出来ない場合があります。
お問い合わせの上、式場の空き状況をご確認ください。



その 他

- *着付けのお部屋のご用意はございませんので、お衣装はお召し替えの上、お越しください。
- *披露宴会場の設備はございません。お衣装や写真撮影・送迎なども、ご自身でご手配ください。
- *挙式お申し込み後、式の作法などをご説明いたしますので、日時のご予約の上、打合せにご来社ください。

〔式次第〕

修祓

獻齋主一揮饌

祝詞奏上

夫婦固みの盃の儀 誓いの言葉奏上 結婚指輪の交換

神樂奉奏

玉串を奉りて拝礼

親族固め 斎主一拝

一同起立、拜礼





式次第と所作の解説

《式次第》

一、入場

〔開式〕

一、修祓

しゅばつ

一、斎主一拝

けんせん

一、献饌

けんせん

一、祝詞奏上

のりとそうじょう

一同起立

一、夫婦固めの盃の儀

ふうふかた さかずき

そうじょう

一、誓いの言葉奏上

かぐらほうそう

一、結婚指輪の交換

かわらひんのうこう

一、神楽奉奏

かぐら奉さう

一、玉串を奉り拝礼

たまぐし たてまつ

一、親族固めの盃の儀

かた さかずき

一、斎主一拝

さいしゅいっぽい

一同起立、一礼

一同起立、拝礼（二礼二拍手一礼）

〔閉式〕

（親族の紹介）

一、退場

以上

※所用時間、約四十分。

※所作については挙式中、その都度神職と巫女がご案内致します。

※式次第の中では、閉式後に「親族の紹介」を行うこともできますので、その際は事前にお打ち合わせください。

『式次第の所作解説』

入場 新郎新婦はじめ参列者が整列し、神楽殿へ入場し各自の席に着きます。

開式 神職が開式を告げます。

修祓 神職が祓い詞を奏上します。奏上の間は、新郎新婦・参列者は起立し、頭をお下げください。続いて、お祓いする際も起立し、頭をお下げください。



斎主一拝

神職が中央に進み、神前に向かい一拝しますので、新郎新婦・参列者は起立し、神職に合わせて一礼してください。

献饌

神職が神前にお供え物を献じます。（着席のまま）

祝詞奏上

神職が神前にて祝詞を読み上げ、新郎新婦の結婚を奉告し、末永い幸福を祈ります。奏上の間は、一同起立し、頭をお下げください。



夫婦固め の盃の儀

新郎新婦が三三九度の盃を酌み交わします。新郎新婦は起立し、巫女がすすめる小・中・大の盃を順に手に取ります。注がれた御神酒を三口で飲み干します。巫女が差し出す小の盃を新郎が受け、御神酒を飲み、盃を巫女に返し、続いて新婦がその盃を受けていただきます。次に中の盃を新婦が飲み、続いて新郎がいただきます。さらに大の盃を新郎が受け、続いて新婦がいただきます。

※お酒の苦手な方は、口をつける程度に留めてよい



誓いの言葉奏上

新郎新婦は揃つて席を起ち、神前正面に進み、神前に向かい一礼します。

新郎が懐(ふところ)より「誓詞(せいし)」を取り出し、誓詞を包む上紙をはずします。はずした上紙は前の案(机)に置いて、中の巻紙を広げ、書かれた「誓いの言葉」を読み上げます。そして新郎、新婦の順に名前を言います。奏上後の誓詞は元通りに上紙に戻し、案の上に置きます。その後揃つて神前に一礼します。

※誓詞は挙式当日にお渡し致します

〔誓詞〕

『誓いの言葉

私たちは、今日の良き日に城南宮の大神様(おおかみさま)の大前(おおまえ)で、結婚式を執(とり)り行いました。常に大神様(おおかみさま)のご加護(かごに)に感謝し、互(たが)いに敬(うやま)い慈(いとく)しみ、心を一(ひと)つにして助け合い、あたたかい家庭を築いて、広く社会に貢献(こうけん)するよう努力することを誓(ちか)います。

令和〇年〇月〇日 城南太郎・花子



結婚指輪の交換

誓いの言葉を奏上した後、その場で指輪の交換を行います。新郎新婦は互いに向き合い、先ず新郎が新婦の左手薬指に指輪をはめ、次に新婦が新郎の左手薬指に指輪をはめます。その後、揃つて神前に一礼し、席へ戻ります。

※お席へ戻る際は、互いに向き合うように内回りし、席へとお戻りください



神楽奉奏

巫女が神前で祝福の神楽を舞います。（着席のまま）

玉串を
奉り拝礼

新郎新婦は起立し、巫女がすすめる玉串（紙垂を取り付けた榊の枝）を受け取り、神前正面へ揃つて進みます。正面の案（机）の前に立ち、玉串を供えて二礼二拍手一礼の作法で拝礼します。その後、席へ戻ります。

※席へ戻る際は、互いに向き合うよう内回りし、
席へとお戻りください。





①右手で榦の枝のつけ根の方を上から持ち、左手で榦の枝の中ほどを下から添えて、胸の高さに持ちます。そして、新郎新婦は玉串を持つて神前へと進み、正面中央の玉串案（机）の前に並んで立ち、神前に向かい一礼します。



②次に玉串の枝先が上になるようにまっすぐに立てます。そして左手を下げる両手で玉串のつけ根を持ちます。



③次に右手を離し、玉串のつけ根が神前に向くように時計回りに半回転させ、右手で玉串の中ほどを下から支え、さらに左手を添えます。



④次に二人揃って一步進み、玉串のつけ根が神前に向くように両手で玉串案の上に置き、一步下がります。
⑤そして二礼二拍手一礼（二度礼をし、一度手を打ち、再度一礼をする）の作法で拝礼します。終わって席へ戻ります。



親族固め の盃の儀

巫女が新郎新婦をはじめ、親族参列者全員の盃に御神酒を注ぎます。全員に行き渡ると神職の発声で皆様が一斉に御神酒をいただきます。

斎主一拝

神職が中央に進み、神前に向かい一拝しますので、新郎新婦はじめ一同も起立し、合わせて一礼してください。

神職が閉式を告げます。

※ 親族紹介を行う際は、はじめに新郎方の代表が、続いて新婦方の代表が順に紹介を行います。上

閉式

退場

新郎新婦様の門出をお祝いし、参列者の祝福の拍手の中をお進みください。

※巫女が腰掛を左右にはずしますので、その間を互いに向き合うように内回りし、出口へお進みください。

以上



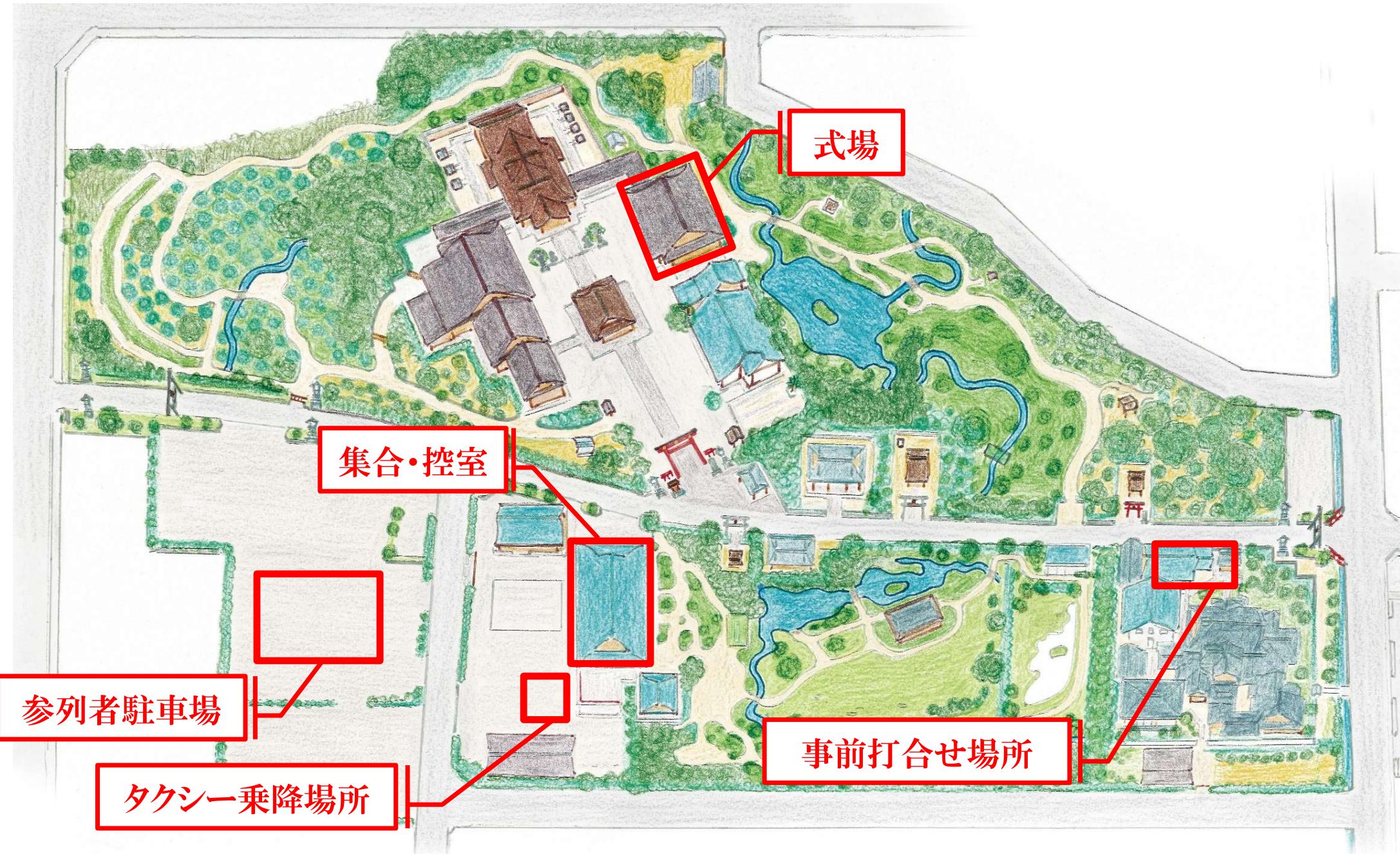


電車 地下鉄・近鉄 竹田駅下車④出口より市バス「城南宮東口」下車 徒歩3分
または、タクシーで5分。⑥出口より徒歩15分。

お車 名神・京都南インターチェンジより国道1号を南へすぐ。

*名神ご利用の方は京都南インターチェンジより国道1号を枚方方面へ降りてすぐ。
*第二京阪道路をご利用の方は城南宮南出入口を降りてすぐ。

[境内図]



写真撮影に関して

※式次第の内、赤色で記した部分が撮影可能です。

その他ではご遠慮ください。

※参列者・・・自席より着席のままご撮影ください。

※業者・・・(一)御殿の左側の親族席の後方よりご撮影ください。

(二)撮影には、フラッシュを使用しないでください。

(三)係員の指示に従い、進行の妨げにならないよう

ご配慮ください。

『式次第』

一、入場

〔開式〕

一、修祓

さいしゅいいつぱい

一、斎主一拝

けんせん

一、献饌

のりとそうじょう

一、祝詞奏上

ふうふかた さかずき

一、夫婦固めの盃の儀

そうじょう

一、誓いの言葉奏上

一、結婚指輪の交換

かぐらほうそう

一、神楽奉奏

たまぐし たてまつ

一、玉串を奉り拝礼

かた さかずき

一、親族固めの盃の儀

さいしゅいいつぱい

一、斎主一拝

一同起立、一礼

〔閉式〕

一、退場



お問合せは、城南宮（☎075-623-0846）までご連絡ください。
城南宮 〒612-8459 京都市伏見区中島離宮町7番地
<https://www.jonangu.com/>